

# 防災



小学校高学年

中学校

高校

社会

総合

クローズアップ現代  26分

## 首都直下 震度7の衝撃 ～どう命を守るか～

(2012年放送)

### この番組の良さ



#### 首都直下地震の被害想定を知る

2012年4月、東京都は、首都直下地震の被害想定を発表しました。最大震度7の巨大地震により、住宅の倒壊や火災の発生、液状化、津波などの甚大な被害が起ると予想されています。

番組の視聴により、これらの被害想定を、CGや実験映像、インタビューや解説などを通して詳しく知ることができます。

#### 自分たちの命をどう守っていくのか

番組では、自助・共助の必要性和大切さ、その実現に向けての動きが紹介されています。被災地に支援の手が届かないという衝撃的な事態が予想される中、各地で始まっている新しい取り組みや、今すぐにも個人で始められる具体的な対策を知り、地震にどう向き合っていけばよいかを考えていくことができます。

### 番組活用のポイント

#### 地震を切実なものとしてとらえられるようにする

地震列島日本に住む私たちにとって、東日本大震災は、防災対策だけではなく、協力や助け合いなどについて考えるきっかけにもなりました。本番組の視聴により、首都直下地震の被害想定とその対策などを知るだけでなく、地震を、自分たちにも関わりのある切実な問題としてとらえられるようにしていくとよいでしょう。首都直下地震や東海、東南海、南海地震など、近い将来起こると言われる大地震に対して行政側の対策や取り組みに期待するばかりでなく、私たちが自らできることを考えていくようにすることが重要です。

#### 「自助・共助・公助」について考えるきっかけに

番組では、被害や混乱を軽減するために求められる備えや対策などが紹介されています。また、住宅の耐震化を考える家庭や、行政（公助）に頼らず独自に避難ビルを探す自治会、連携して対策を模索する企業などの取り組みも紹介されています。これらの自助、共助の備えは、どの地域においても進めていくことが大切です。番組を視聴することにより、地震を恐れるばかりでなく、自分や地域の人々の命を守るために、地震とどのように向き合っていけばよいか、そして、自分たちの地域でできることは何かを考えていく展開にしていくとよいでしょう。

#### より深く考えるために

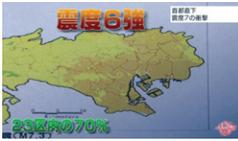
防災教育をさらに推進していくためには、首都直下地震以外に、様々な内容の学習を進めていくことが効果的です。ティーチャーズ・ライブラリーの関連番組『巨大津波が都市を襲う～東海 東南海 南海地震～』（P.46）や『防災力クライシス そのとき被災者を誰が救うか』（2012年度版P.30）、『津波～迫り来る水の恐怖～』（2012年度版P.32）なども合わせて視聴するとよいでしょう。

学習展開例

授業時間 45分

# 首都直下地震から命を守る わたしたちにできることは



時間配分	学習活動	教師の支援
5分	①地域の防災訓練に参加した経験を話し合う。	○避難訓練などの地域で行われる防災訓練に参加した経験をふり返ることで、身近に迫る切実な問題であることを意識してから番組を視聴できるようにする。
25分	②番組を視聴しながら考える。  震度6強 23区内の70% 視聴 ・23区内の70%が震度6強の揺れに襲われる首都東京  ・待ったなしで対策を考えなくてはいけないと警鐘を鳴らす大佛教授  ・行政に頼らずに、避難ビルを探し住民の避難場所を確保しようとする鶴田（ときた）町会長  ・救助を待つのではなく、自ら行動するという発想の転換が必要であると力説する協議会事務局の児島さん	○途中で一時停止せずに視聴する。番組に集中できるようにメモは取らないようにする。 ○首都直下地震によって想定される死者や帰宅困難者、住宅の倒壊、火災の発生、液状化、津波などの被害を、キーワードとして板書していく。 ○自治会独自に避難ビルを探すなどして連携しようとする動きや、企業に勤める人たちが救助活動の訓練をする様子などを紹介し、行政に頼らず自らの手で協力して地震に備えようとする取り組みとその必要性に着目できるようにする。 ○「自助」「共助」「公助」の3つの言葉を板書し、自分たちにできることは何か考えながら視聴するように声をかける。（必要に応じて言葉について補説する。） ○動ける人が率先して動き、住民が住民を助け、市民が市民を助ける社会を作っていくことの重要性に気づくことができるようにする。
15分	③考えたことを交流し合う。	○番組視聴後、「自分たちの地域はどうなのだろうか」「自分たちにできることはどんなことだろうか」と発問し、自分たちの住む地域の被害想定や防災対策などに関心をもち、今後の取り組みを考えていけるようにする。生まれた課題については、総合的な学習の時間などで追究していけるようにする。 ○地域の防災訓練に参加した経験の少ない児童・生徒の中で、変化が見られた子を意図的に指名する。

コラム

意図的・計画的な防災教育を推進するために

防災教育を推進するにあたり、今後、ティーチャーズ・ライブラリーなどの「映像資料」を積極的に活用する場面が多くなってくると考えられます。指導者は、授業の目的や児童生徒の実態に応じて扱う「映像資料」を吟味し、各校の防災教育担当は中心となって、自分たちの地域のハザードマップや防災計画などを見直す機会を職員研修や職員会議の中に設け、職員の意識を高め、組織として意図的・計画的な取り組みを推進していくことが効果的です。